

遊び学び育つひろしまっ子！

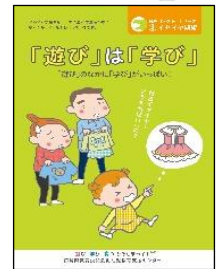
NEW 家庭教育啓発資料 「遊び」は「学び」

2月には新たな啓発資料を掲載予定！

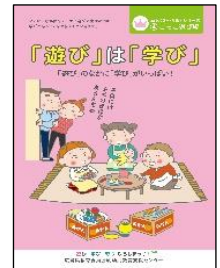
子供の発達段階に応じて、遊んだり生活したりしている場面を切り口に、「遊び」の中に『学び』がある」ことを保護者の方に分かりやすく伝えるために、家庭教育啓発資料を作成し、広島県教育委員会ホームページに掲載しています。

今年度は、乳児シリーズと幼児シリーズそれぞれ3種類の啓発資料とともに、啓発資料を動画にしたスライドムービーも掲載します。

園・所においては、ポスター掲示等の周知に御協力いただきありがとうございます。2月には「いないいないばあ編」「好きを見つかる編」の掲載を予定しております。アンケートを併せて実施いたしますので、引き続き御協力の程、よろしくお願いします。



【乳児シリーズ③繰り返し遊び編・④イヤイヤ期編】



【幼児シリーズ③がまん編・④ごっこ遊び編】

啓発資料、スライドムービー、アンケートは、次のホームページに掲載しています！
URL: <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/oyakokomi/asomanaippai.html>



検索 遊びは学び

園・所等における

保護者支援のための研修会（オンライン）

【講師】九州ルーテル学院大学人文学部
教授 永野 典詞 氏



園・所等に求められる保護者支援に関して、子供の育ちや保護者自身の不安など、様々な悩みを抱えている乳幼児の保護者に対する寄り添い方や関わり方について考えることを目的として行われました。（12/14開催）

※ 乳幼児教育支援センターでは、センターが実施する研修について、設置形態・施設種別を超えて率直な意見交換を行っていただく、研修モニターを設置しており、各希望研修後には、参加者の皆様に事後アンケートを提出していただくほか、研修モニターからより詳細な感想等を聴取することで、皆様のニーズに沿った研修の実施に向け、取り組んでいます。

研修モニターの声

「親を育てるという視点ではなく親が持っている子育ての力を取り戻してもらうという視点が大切」という永野先生の言葉から、子育てを頑張っている保護者を支えていきたいと感じました。

～研修モニターA先生(私立こども園)～

とてもポジティブな思いになりました。いいところを見つけて保護者の方や子供と接していこうと思います。子供のために、保育者と保護者が同じ方向を向いて、子供に関わることができるようになるのが保護者支援だと思います。

～研修モニターB先生(私立幼稚園)～

「乳児保育における5つの力の育み」

事業報告会（オンライン）

令和4年3月2日（水）13:30～16:30

【実践報告】保育所ひかり学園・みどりの森保育園
青雲保育園・東広島市立中黒瀬保育所

【講評・総評】広島文教大学 准教授 牧 亮太氏
福山市立大学 准教授 上山瑠津子氏
広島大学大学院 教授 中坪史典氏

※開催案内は、近日中に通知いたします。

子供の姿をとらえる！

カリキュラム研修会（オンライン）

令和4年2月10日（木）13:30～16:30

【講師】福山市立大学 名誉教授
新見公立大学 特任教授 高月 教恵 氏

https://s-kantan.com/pref-hiroshima-u/offer/offerList_initDisplay.action

締切：2月8日（火）

申込→



今後の研修のご案内



乳幼児とご家庭について、保護者対応や家庭の養育状況など、

気になること、お困りのことがありませんか？

幼稚園・保育所・認定こども園等の依頼に応じ、保育ソーシャルワーカーを派遣し、園・所と家庭・地域との連携・協力を支援する「保育ソーシャルワーカー派遣事業」を実施しています。



Q 1 保育ソーシャルワーカーって、どんな人？

A. 社会福祉士等の資格を持ち、園・所の困りごとをお聞きし、状況を整理して、社会資源を活用しながら、乳幼児とご家庭への支援を一緒に考えます。現在、全県を対象に7名が活動しています。



Q 2 費用や利用の上限はあるの？

A. 費用はかかりません。また、利用回数の上限もありません。



Q 3 派遣を希望するときは？

A. 保育ソーシャルワーカー派遣依頼書（広島県教育委員会・幼児教育のHPからダウンロード）を提出してください。



Q 4 具体的にどんなことをしているの？

A. 以下のような困りごとへの支援をしています。
○保護者との関係づくり ○家庭の養育状況
○家庭の経済状況 ○保護者の不安な状況
○乳幼児への虐待やその疑い
○乳幼児の発達上の課題

★個別ケースに関する相談

園・所の先生方からお話をお聞きし、乳幼児の家庭等への働きかけや支援を一緒に考えます。

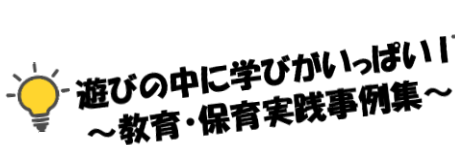
★関係機関との連携の支援

地域で利用できる関係機関やその役割についてお伝えし、必要に応じて橋渡しをいたします。

★制度・サービスの紹介

相談に応じて、福祉、保健、医療等の制度やサービスをご紹介します。

ご不明な点等ございましたら、乳幼児教育支援センターまでお気軽にご連絡ください。ご依頼お待ちしております！



「教育・保育実践事例集（平成30年3月広島県教育委員会）」から、寒い朝、園庭のあちこちでできている氷を見つけたことから、遊びが展開されていく4歳児の事例（P90）を紹介します。



寒い朝、水たまりやコップに残っていた水が氷になっていることに子供たちが気付く。「うわー、氷が出来てる」と歓声を上げ、それを取り出して、「キラキラしている」と見つめたり、「お料理にしよう」と容器に入れたりしている。

その時、A児の手から氷が滑り落ちて、地面で割れる。子供たちは「あー」と叫んだり、「あーあ」と残念がったりしている。保育者がそこを踏んで、「わあ、滑るー」とおどけて言うと、そこから「割っちゃえ」とわざと踏んで割る遊びが始まる。

その日の遊びの終わりに、保育者は「また氷ができたらいいいねえ。どうやったらできるのかなあ？」と投げかけてみる。すると、「水を容器に入れたらいい」、「寒いところに置く」などの意見が出てきて、それぞれが、思い思いに好きな場所に水の入った容器を置いて帰ることになる。

翌日も寒い朝で、みんなで氷ができたかどうか見に行く。子供たちは、「氷ができてる！」と喜んでいる。すり鉢に水を入れていた子供が氷を取り出し、びっくりして「うわー、ギザギザ氷だ！」と叫ぶ。その声を聞いて、他の子供も見に来て、それを触って確かめている。この他にもコップに棒を挿していた氷がアイスクリームの形になっているなど、形の面白さに気付いていく。

保育者も「うわー、面白い、いろんな形ができるんやね」と伝え、昨日は自分の氷を作っていなかったB児に、「他のものでもできるかもね」と言ってみる。すると、B児が「あ！」と保育室に戻り卵パックを取ってくる。その様子を見て、他の子供も様々な廃材などを持ってきて氷を作るようになっていく。



自然を通じた感動体験は、子供たちの好奇心を揺さぶり、日常生活の中で、霜柱やツララのでき方、日向と日陰、春の雪解け、冷蔵庫と外の氷の違い、氷・水・湯気などに目を向け、天候や気温、季節の変化などつなげて考えるなど、幼児なりの探究心へのきっかけとなっていきます。

【発行元及び連絡先】広島県乳幼児教育支援センター

〒730-8514 広島市中区基町9-42 広島県教育委員会事務局（東館6階）

TEL 082 (513) 4978 FAX 082 (212) 3331

広島県乳幼児教育支援センターホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/youji-index.html>